

慢性硬膜下血腫の治療

漢方薬というのは、即効性がない。効き目なんてあるのか？などと、一般に、メスを使いたがる外科医者の評価は低い。だが、薬は、ものよりのけりである。

72歳のSさん。最近、ボーとしていてることが多く、呂律が回らない。認知症ではないかと、家族に連れられてきた。と、頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査で、慢性硬膜下血腫が見付かった。約1カ月半前、転んで頭を打っている。血腫は大きく、脳を圧迫している。早く手術したほうが良い。

だが、脳梗塞が持病のSさんは、血液サラサラの薬である抗血小板剤を飲んでいました。手術は、頭の骨に1円玉くらいの穴を開け、血腫を洗い流すだけの簡単なものだ。でも、抗血小板剤を飲んでいる人は、手術で切開したところの出血が止まりにくい。新たに血腫ができてしまうことだってある。

幸い、症状も軽いのだ。まずは、五苓散（ごれいさん）という漢方薬で経過をみることにした。もちろん、症状が急に強くなったらすれば、すぐに手術をする予定だ。が、なんと、S

さんの血腫も症状も、2カ月後にはなくなってしまったのである。

五苓散には、溜（た）まった水を取り除く利用作用があるという。仕組みはよく分からない。が、ある報告では、慢性硬膜下血腫29例に、五苓散を単独投与し、うち22例、76%が治癒したという。7例は、最終的に手術になったとある。

慢性硬膜下血腫は、頭を打った後、2、3週間から3カ月後に見付かる。血腫がまだ小さく、脳の圧迫が軽くて無症状の時から、漢方薬を飲むだけで手術をしなくて済むのではなからうか。気がかりなひとは、受傷後1カ月位に、まずは頭の検査をすることを勧めてみる。痛くも痒くもない検査だ。が、「やはり、頭の検査は怖いじゃないか」と言う人もいる。ウーム。どうしよう。

（石黒修三＝いし黒くろしニック・脳神経

外科医…2/18北國新聞掲載）